

韓国ドラマを通して、 差別について考える ～韓流ブームを振り返りながら～

〈講師〉 **高吉美さん**

兵庫県隣保館連絡協議会・全隣協近畿ブロック協議会事務局員。近畿6府県と兵庫県内の隣保館をとりまとめ、人権に関する情報提供や職員研修の企画運営を担当する。
韓国・翰林大学『池明観日記』刊行企画編集員(日本語翻訳担当)でもある。

『韓流ブーム』は2004年、地上波で『冬のソナタ』が放映されたのをきっかけに始まったと言われていています。あれから20年以上の時間が過ぎ、韓流コンテンツは世界的な人気を博し、『韓国』はより身近な国となりました。

韓国ドラマでは、社会問題や歴史的な事件を直接的に描写する場面が多く、ドラマの中で差別的な表現が使用されることもあります。

そこで今回、高吉美さんをお招きし『韓国ドラマ』に焦点を当て、ドラマから通してみえてくる『人権』や『差別』について、様々な角度から詳しくお話いただきます。

4/10 金 午後2時～午後3時30分

会場 尼崎市立地域総合センター塚口 3階 集会室

申込 3月2日(月)よりお電話またはFAX、センター窓口にて受付

対象 どなたでも参加可能です

参加
無料

定員
60名

【問い合わせ】

尼崎市立地域総合センター塚口

〒661-0001 兵庫県尼崎市塚口本町2丁目28-11

TEL:06-6423-5266 FAX:06-6423-5266

